

言語発達に遅れのある児童の指導内容に関するカテゴリー分析

高 嶋 利次郎

本研究では、小学校低学年の言語発達に遅れのある児童の指導内容について、言語障害教育の経験が2年以上ある教員に7件法によるアンケート調査を行った。指導内容を作成する基盤となった実態把握のためのチェック項目は種々の心理検査等の項目に基づいており、各検査における通過率(50~70%)を参考に1年単位で配列してある。そのため、対象となる児童は言語発達年齢で3歳~7歳、生活年齢は6歳~9歳の児童とした。教員の指導経験や判断に基づいた回答結果に対して、主因子法による因子分析を行い、バリマックス回転を行って7因子を抽出した。抽出された7因子の累積寄与率は63.1%であった。次に、7因子に基づいて、指導内容を再構成した。このことにより、言語発達年齢で4~6歳前後の言語発達に遅れのある児童の指導内容に関して、文献や作成者の判断に基づく内容構成から、多数の教員の経験と判断に基づいた、指導内容の内容構成を行うことができた。

キー・ワード：言語発達に遅れのある児童 指導内容 因子分析 言語発達年齢

I. はじめに

平成5年度から制度化された通級指導教室において、全国で通級による指導を受けている児童生徒数は、平成5年度では9,654名であったが、平成11年度は21,944名に増加している。平成8年度に全国の難聴学級、言語障害特殊学級及び難聴、言語障害を対象とする通級指導教室において、週1回の定期的な指導を受けている児童生徒の障害の状況としては、構音障害が44%と最も多く、次いで言語発達の遅れの児童生徒が約29%を占め、次いで難聴10%、吃音が8%という状況にある(国総研, 1998a⁶⁾)。

一方、言語障害通級指導教室、言語障害特殊学級における指導上の課題としては、実態把握や指導内容・方法、指導計画の立案と評価の仕方、関係者との連携・協力、研修などの重要性が指摘されている(国総研, 1998b⁷⁾)。

北海道においては、個々の事例研究において、対象児一人一人の生育歴調査、行動観察、母親面接及びことばのテスト絵本や絵画語い発達検査などの諸検査を活用するなどにより、対象児の長所やよさをとらえるとともに、対象児と保護者、通級担当者などのかかわりを丹念にとらえ、対象児の状態像を解釈し、指導

の方針を立てて指導を行った事例の報告が数多くなされている(北海道言語障害児教育研究協議会, 1998⁴⁾)。

また、それらの報告をとおして、知的障害、自閉的傾向、学習障害等の言葉の遅れにかかわっていると思われる要因を的確に把握し、指導の目標、指導の方針を立て、指導内容・方法を設定することや通常の学級への援助の内容や進め方に課題があることがうかがわれる(北海道言語障害児教育研究協議会, 1998⁴⁾)。

実態の把握に関しては、行動観察や保護者との面接調査の他に、児童の状態や目的に応じて、心理検査を組み合わせて実施している。指導内容・方法に関しては、実態把握によってとらえられた一人一人の児童の言語力、保護者や教師とのコミュニケーションの状況に応じて設定されることになる。

したがって、児童一人一人について指導内容・方法を設定する上では、とらえられた実態に応じて、特に経験年数の少ない教員にとっては、何らかの拠り所となる指導内容が求められる。

言語発達の遅れの指導内容・方法に関する研究について概観すると、関係論的言語指導(田口, 1974⁸⁾)、行動論的言語指導(小林, 1980⁹⁾)、語用論的言語指導(「乳幼児コミュニケーションアセスメント・指導プログラム」の開発[長崎・小野里, 1996¹¹⁾]、スクリプトによる指導[長崎他, 1998¹⁰⁾]等)等による研究が行わ

れている。一方、小学校就学時に言語発達の遅れが指摘され、通級による定期的な指導を受け始める児童の言語発達年齢は4歳～6歳前後である例もみられ、これに対応した指導内容・方法の検討が必要であると考える。

そこで、本研究では言語発達年齢で4歳～6歳段階の言語発達の遅れのある小学校低学年の児童（6歳～9歳の生活年齢）の指導内容について、言語障害教育の経験のある教師の実践経験や判断をもとに、指導内容の構成について検討する。

II. 研究の内容と方法

1. 調査対象

言語障害教育にかかわる指導経験が2年以上の教師85名。

2. 手 続 き

新版 K 式発達検査、田中ビネー式知能検査、言語能力発達質問紙(田口, 1970¹⁸⁾)、乳幼児精神発達診断法(津守・稲毛・磯部式発達質問紙)、遠城寺式・乳幼児分析的発達検査、デンバー式発達スクリーニング検査などや文理解などに関する研究(林部, 1976³⁾ほか)をもとに4歳～6歳段階の項目を収集・整理して得た48項目(表1)に対応させて、17項目の指導の目標と52項目の指導内容を作成した(表2, 表3)。質問紙は指導の目標を表2から一つ選択し、その指導の目標の達成に表3の1～52の指導内容が役立ったかあるいは役に立つと考えるか、7件法による判断を記入する質問紙を作成した。なお、7件法は「非常に役立った」、「役立った」、「どちらかと言えば役立った」、「どちらとも言えない」、「どちらかと言えば、役立たなかった」、「役立たなかった」、「全く役立たなかった」で構成した。

(3) 調査の実施

国立特殊教育総合研究所主催の平成12年度「通級による指導」指導者講習会言語障害部会参加者59名、北海道21名、栃木県23名、兵庫県4名、東京都34名、千葉県62名、横浜市9名、神奈川県4名(合計216名)に対して、アンケート調査を実施した。得られた回答数は134名(回収率62.0%)、そのうち、言語障害教育の経験年数が0年の者11名、1年の者8名、言語障害教育の経験年数が未記入の者11名、児童が対象年齢外の者1名、作為的回答と理解される者3名、記入が不完全な者5名を除いた96名が有効回答数であった。

分析対象者の言語障害教育にかかわる経験年数は、2・3年が16名、4～6年が20名、7～9年が36名、10～15年が14名、16～20年が6名、21年以上が3名で

ある。

III. 結果と考察

1. 因子分析

回答者が選択した指導の目標とその選択人数は表4のとおりである。

52個の指導内容の相関行列に主成分分析を行った結果、相関行列の固有値が1.0以上の因子は11個抽出された。内容の解釈可能性に基づく、7因子モデルの場合に、最も単純な因子構造が得られたため、7因子モデルを仮定して、共通性の初期値をSMCとした主因子法による反復50回指定の因子分析を行った。さらに、より単純な構造を得るために、バリマックス法による因子の回転を行った(表5)。

得られた7因子の累積寄与率は63.1%であり、7因子では説明できない指導内容が4割程度存在すると考えられる。

各因子の内容の解釈について検討すると、回転後の因子負荷量が0.5以上の場合に内容的にまとまりのある指導内容のグルーピングが可能である。

そこで、各因子について、0.5以上の因子負荷量を示す項目を集め、内容を検討し因子名を決定した。

因子1には、指導内容の項目番号の3, 5, 11, 12, 13, 14, 33, 34, 40が含まれる。

- 3 日常生活で印象に残ったことを絵日記に書き、発表する。
- 5 生活経験を書いた絵日記や親しみのある絵本の字を読み、動作化したり、話の内容を説明し、5 W 1 H の質問に答える。
- 11 日常生活でよく経験している事柄や内容を理解している話を聞いて、場面ごとの絵カードを話の内容に沿って並べ動作化する。
- 12 生活経験の一場面を表す絵を見て、動作化する、その状況について「～が～する」「～が～を～する」「～に～がある、いる」「～は～で～を～する」「～は～を～にあげる」「～は～を～から(に)をもらう」の構文や複合文で絵カードや言葉を使って説明する。
- 13 人形や絵カード等の操作により、受動文を作成する。
- 14 人形や絵カードと文のモデルを利用した学習を行い、熟知している表現の範囲内で人形等を操作して受動文を能動文、能動文を受動文に変えて説明する。
- 33 日常生活では通常あり得ない意味的制約が弱い文表現に対応した絵カードを用いて、「～が～した」などの文で話す。

表1 検査項目

【4歳段階】

- 1 自分の名前を音読することができる (T)。
- 2 絵の中の足りない部分に気づき指さす (K)。
- 3 絵を見てその状況について「～が～する」「～が～を～する」「～に～がある、いる」「～は～で～をする」の構文を使って言うことができる。 (A 1)。
- 4 「～は～を～にあげる」の構文を使って言うことができる (A 1)。
- 5 複合文を使うことができる (「～したとき、～だった」「～なので～だった」)等の言い方 (P)。
- 6 紙、はさみ、のりなどを使って簡単な物を制作する (TU)。
- 7 絵カードを見て、言われたものの絵カードをとる (TB 一部改変。飛行機、手、家、かさ、くつ、ボール、いす、はさみ、時計、葉、馬、めがね、テーブル、ピストル、木)。
- 8 かくれんぼをしてさがす役とかくれる役とを理解する (TU)。
- 9 砂場に、山や池、川などを作り、水を流したりして遊ぶ。 (TU)。
- 10 魚、野菜、果物、動物などというような抽象名詞を理解できる (G)。
- 11 「なに」の質問で言葉の意味を尋ねたり、「どうして」で、他と異なっている原因や理由を確かめる (O)。
- 12 「犬がお母さんをなでた」という文を聞いて、おもちゃを使って動作させると、お母さんが犬をなでる動作をする (会話文中の単語間の意味的な制約に従って文を理解する) (H)。
- 13 「犬を猫がなでた」という文を聞いて、犬が猫をなでたと理解しておもちゃを使って動作する (会話において、文頭の名詞を動作主〔行為者〕とし、2番目の名詞を対象〔被行為者〕として理解する) (S-S)。
- 14 反対類推ができる (「火は暑い、氷は・・・?」と言って、子どもが「冷たい」「涼しい」「凍る」など答えられる (D)。
- 15 仮定の問かけに対して、常識的な判断を行い、答えることができる (「もしも、あなたが学校(幼稚園)へ出かけるとき、雨が降っていたら、あなたは どうしますか?」以下同様に「家が火事で燃えているとき」「どこかへ行こうとしてバスに乗り遅れたら」) (K 式)。
- 16 「この中で音の出るものはどれ?」「水の上を走るものはどれ?」など日常目に触れている物の特徴を尋ねると、正しい答えを指さすことができる (G)。
- 17 身近な単語を定義する (「机とは何ですか?」机、鉛筆、ストーブ、電車、馬、人形) (K 式)。
- 18 指で示しながら、二度繰り返して言えば3つの命令を理解し、実行できる (S)。
- 19 一つの文を正しくまねて言える (「子どもが二人ブランコに乗っています。」「山の上に大きな月が出ました。」「きのうおかさんと買い物に行きました」) (E)。
- 20 基本音節からなる語を聞いて、音節の数だけ手を叩く (基本音節: 母音、子音+母音の構造をもつ、直音で短音節、清音・濁音が含まれる。サル、ネズミ、ノコギリ、クジラ。) (A 2)。
- 21 テレビで見たことを話題にして、友達と話をする (TU)。

【5歳段階】

- 22 文を1文字ずつ区切って音読する (拾い読み) (A 2)。
- 23 「～は～を～から (に) もらう」の構文を使って言うことができる (A 1)。
- 24 自分の名前をひらがなで書く (TU)。
- 25 経験したことを絵に描こうとする (TU)。
- 26 子どもカルタをほとんどとる (TU)。
- 27 じゃんけんの勝ち負けが分かる (TU)。
- 28 お店ごっこのような特定の遊びの計画の中で遊ぶ (G, H 一部改変)。
- 29 「犬を猫がなでた」という文を聞いて、猫が犬をなでたと理解して、おもちゃを使って動作をする (助詞を手がかりに文を理解する) (H)。
- 30 左右の区別ができる (「あなたの左の手はどれですか」左の手、右の耳、左の目) (K)。
- 31 「空腹」「疲労」「寒い」を理解する (「疲れたときどうしますか?」「寒いときどうしますか?」「お腹がすいたらどうしますか?」に対して) (D)。
- 32 「なぜなぜ」をする (TU)。
- 33 三つの簡単な命令ならば、同時に言いつけても覚えていて順々に実行することができる (G)。
- 34 4数の復唱ができる (TU)。
- 35 「しりとりに遊び」ができる (TU)。
- 36 自分の家の、ところ、番地 (住所) を正しく言う (TU)。

【6歳段階】

- 37 絵本の字を他の人に意味の通じるように読む (TU 一部改変)。
- 38 ひらがなの本 (字を主とした本) をたいがい読む (T)。
- 39 トランプの神経衰弱をする (TU)。
- 40 簡単な模型 (プラモデル) の組立が分かる。 (TU)。
- 41 学校ごっこ、探していごっこをする (G 一部改変)。
- 42 熊が犬を、犬が熊をだしている絵カードを提示し、「熊は犬をだしている」「犬は熊にだかれている」という文を聞いて、正しい絵カードを選択する (A 1 一部改変)。
- 43 困ったときに適切に判断できる (「もしも、あなたが何か友達の物を壊したときには、あなたは どうしますか?」以下同様に「学校へ行く途中で遅刻するかもしれないと気がついたとき」「友達がうっかりして、あなたの足を踏んだとき」) (K)。
- 44 身近な物の素材が分かり言葉で説明する (「スプーンは何でできていますか?」スプーン、靴、ドア) (D)。
- 45 言葉の違いについて適切な基準や同一の基準と比較)と適切な表現 (両者の差異が正しく分かる) で説明する (「卵と石」「蝶とはえ」「木の板とガラス」) (K)。
- 46 11語からなる文を復唱できる (K)。
- 47 20から1までの逆唱ができる (K)。
- 48 尋ねられると、幼稚園や学校へ行く道順を説明できる (TU)。

D: 日本版デンバー式発達スクリーニング検査

TU: 乳幼児精神発達診断法 (津守・稲毛・磯部式発達質問紙)

G: ゲゼル (言語能力発達質問紙 [田口, 1970¹⁰⁾] による)

A 1: 天野 (1977¹¹⁾)

A 2: 天野 (1986¹²⁾)

P: カード式ボーディング乳幼児教育プログラム (ブルーマほか, 1983¹⁰⁾)

O: 大久保 (1967¹²⁾)

K: 新版 K 式発達検査

H: 林部 (1976¹³⁾)

TB: 田中ビネー式知能検査

E: 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査

S: 鈴木ビネー式知能検査

S-S: 小寺ほか (1987¹⁴⁾)

表 2 指導目標

- 1 やさしい本を読解し、内容を言う。
- 2 全体と部分の関係に気付いたり、同じもののマッチングをすることができる。
- 3 ひらがなを意味が通じるように音読する。
- 4 名前などよく知っている言葉を視写したり、思い出して書く。
- 5 「～が～を～する」、やりもらい文、複合文、受動文で表現する。
- 6 物や人のイメージをもって絵を描いたり制作することができる。
- 7 乗り物、動物など身近なものの絵の名前が分かる。
- 8 ルールのある遊びをする。
- 9 イメージを動作で表現する。
- 10 言葉を上位概念で分類する。
- 11 助詞を手がかりに文を理解する。
- 12 反対語や言葉相互の関係を理解して、反対類推や関係類推を行う。
- 13 比較的身近な話題に関して仮定の問いかけをされたときに、適切な判断をすることができる。
- 14 言葉に興味・関心をもち、抽象名詞を理解して、言葉を言葉で概括したり説明する。
- 15 文等を復唱したり記憶して実行する。
- 16 音節をとらえる。
- 17 物語を長く聞いたり、身近な事柄を話題にして会話する。

34 語順を入れ替えたときに文頭にくる単語を教師が言った後に、続けて子どもが表現する。

40 文を正しくまねて言い、人形等を操作したり、動作する
(文の長さは3文節～4文節から始め、6～7文節程度まで扱う)。

これらの項目は、経験したことや映像を見るなどにより、動作化したり言葉で表現する項目であるため、「経験や映像の動作化、言語化」因子と命名した。

因子2は4, 6, 7, 8, 9, 10で構成されている。

これらの項目は、部分と全体の関係をとらえる、同じ図形を選ぶ、異なる特徴をもつものを選ぶ、視写するなどの視覚的な処理にかかわる項目であるため、「視覚的統合」因子と命名した。

4 ジグソーパズルなどをする。

6 迷路遊びを行う。

7 複数の重なり合った図形や絵の中から、提示された図形と同じものを探して縁取る。

8 複数の類似した図形の中から、提示された図形と同じものを探して縁取る。

9 複数の図形や絵の中から、異なる特徴をもつものを探す。

10 手本を見ながら、点と点を線で結び、同じ模様や図形を書く。

因子3は、41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48で構成される。これらの項目は、聴覚的短期記憶と実行・再

生、音節の分解、対応、順序付けにかかわる項目であるため、「聴覚的短期記憶と再生」因子と命名した。

41 複数の課題を同時に指示し、順に実行する。

42 伝言ゲームや模擬電話を使って4つの数や5つの数の復唱をする。

43 20から1までの逆唱をする。

44 4つの数の逆唱する(例 6-5-2-8)。

45 聞き慣れた曲のメロディーや歌詞を聴いて、曲名を言う、絵カードを選ぶ。

46 言葉の初めにくる音(語頭音)をさがし、同じ頭文字の言葉を集める。

47 文字や積木等を使い、基本音節からなる語を音節に分ける。

48 しりとり遊びをする。

因子4は、25, 29, 30, 31, 35, 36, 37, 38で構成される。これらの項目は、分類、類別、類推したり、説明することにかかわる項目であるため、「類別・類推」因子と命名した。

25 事象と記号の連合学習をする。

29 魚、野菜、果物、動物などというような抽象名詞による仲間集めをする。

30 属性による分類を行い、言葉で説明する。

表3 指導内容

- 1 絵を見て絵の内容を説明する。
- 2 絵本の読み聞かせや童話のビデオの視聴の後、動作化や劇ごっこ、劇遊びを行い、話の内容について話す。
- 3 日常生活で印象に残ったことを絵日記に書き、発表する。
- 4 ジグソーパズルなどをする。
- 5 生活経験を書いた絵日記や親しみのある絵本の字を読み、動作化したり、話の内容を説明し、5 W 1 H の質問に答える。
- 6 迷路遊びを行う。
- 7 複数の重なり合った図形や絵の中から、提示された図形と同じものを探して縁取る。
- 8 複数の類似した図形の中から、提示された図形と同じものを探して縁取る。
- 9 複数の図形や絵の中から、異なる特徴をもつものを探す。
- 10 手本を見ながら、点と点を線で結び、同じ模様や図形を書く。
- 11 日常生活でよく経験している事柄や内容を理解している話を聞いて、場面ごとの絵カードを話の内容に沿って並べ動作化する。
- 12 生活経験の一場面を表す絵を見て、動作化する、その状況について「～が～する」「～が～を～する」「～に～がある、いる」「～は～で～を～する」「～は～を～にあげる」「～は～を～から(に)をもらう」の構文や複合文で絵カードや言葉を使って説明する。
- 13 人形や絵カード等の操作により、受動文を作成する。
- 14 人形や絵カードと文のモデルを利用した学習を行い、熟知している表現の範囲内で人形等を操作して受動文を能動文、能動文を受動文に変えて説明する。
- 15 好きなキャラクターや日常生活で経験したことを絵に描く。
- 16 紙、はさみ、のり等を使って、動物や紙飛行機を折るなど簡単な物を制作する。
- 17 簡単な模型(プラモデル)や動くおもちゃを組立て、組立方について、簡単な説明文を書く。
- 18 経験したことを絵に描き、描いたものの名前や内容について話す。
- 19 かくれんぼをしてさがす役とかくられる役とを理解したり、鬼ごっこで鬼と逃げる役割とを理解する。
- 20 じゃんけんの勝ち、負けが分かる。
- 21 トランプのばば抜きや神経衰弱をする。
- 22 同じ食べ物のカード、同じ色のカード等を選ぶゲームをする。
- 23 ジェスチャーによる日常生活の再現遊びをする。
- 24 砂場に山や池、川などを作り、水を流したりして遊ぶ。
- 25 事象と記号の連合学習をする(色の自動車、飛行機、船の絵カードをそれぞれ何枚か準備して、その場で「自動車は赤」「飛行機は緑」「船は黄色」というような事象と色のような記号との約束事を決め、同一事象の絵カードに記号をつけさせる(この場合には色を塗る)。
- 26 ストーリー性のある見立て遊びをする。
- 27 お店ごっこをして遊ぶ。
- 28 ストーリー性のあるごっこ遊びをする(学校ごっこ、探ていごっこ等)。
- 29 魚、野菜、果物、動物などというような抽象名詞による仲間集めをする。
- 30 属性による分類を行い、言葉で説明する。
- 31 言葉の仲間分けを行い、その違いについて適切な内容(適切な基準や同一の基準で比較)と適切な表現(両者の差異が正しく分かる)で説明する。
- 32 日常経験する事柄について、子どもにとって印象が強い場面*の絵カードを用意し、絵を見てどのような内容か話す。
(*単語間の意味的な制約が強い)
- 33 日常生活では通常あり得ない意味的な制約が弱い文表現に対応した絵カードを用いて、「～が～した」などの文で話す。
- 34 語順を入れ替えたときに文頭にくる単語を教師が言った後に、続けて子どもが表現する。
- 35 上、中、下、前、後ろ、横等の位置関係を示す言葉に対応した場所に物を分類する。
- 36 関係のある言葉の仲間集めをする(関係類推)。
- 37 反対の関係にある言葉の仲間集めをする(反対類推、反対語)。
- 38 社会事象や日常生活における様々な経験に関する「どうして?」「どうすればいい?」という問いかけに対して、その理由を言葉で表現する。
- 39 絵本やテレビ番組(子ども番組、ニュース)等で興味をもった内容について、理由付けをして説明する。
- 40 文を正しくまねて言い、人形等を操作したり、動作する(文の長さは3文節～4文節から始め、6～7文節程度まで扱う)。
- 41 複数の課題を同時に指示し、順に実行する。
- 42 伝言ゲームや模擬電話を使って4つの数や5つの数の復唱をする。
- 43 20から1までの逆唱をする。
- 44 4つの数の逆唱をする(例 6-5-2-8)。
- 45 聞き慣れた曲のメロディーや歌詞を聴いて、曲名を言う、絵カードを選ぶ。
- 46 言葉の初めにくる音(語頭音)をさがし、同じ頭文字の言葉を集める。
- 47 文字や積木等を使い、基本音節*からなる語を音節に分ける。
*基本音節: 母音、子音+母音の構造をもつ直音で短音節、清音・濁音が含まれる。サル、ネズミ、ノコギリ、クジラなど。
- 48 しりとり遊びをする。
- 49 物語を聞いて、絵カードをあらすじに沿って並べる。
- 50 経験したこと、考えていること、テレビで見たこと等を話題にして、話し合いをする。
- 51 自分の家の、ところ、番地(住所)や幼稚園や学校へ行く道順を説明したり、絵に描く。
- 52 電話をかけて必要なことを伝える。

表4 回答者が選択した
指導目標と選択人数

指導の 目標番号	回答 者数
1	9名
2	4名
3	6名
4	4名
5	4名
6	5名
7	10名
8	7名
9	5名
10	7名
11	2名
12	3名
13	5名
14	7名
15	2名
16	1名
17	5名

- 31 言葉の仲間分けを行い、その違いについて適切な内容(適切な基準や同一の基準で比較)と適切な表現(両者の差異が正しく分かる)で説明する。
- 35 上, 中, 下, 前, 後ろ, 横等の位置関係を示す言葉に対応した場所に物を分類する。
- 36 関係のある言葉の仲間集めをする(関係類推)。
- 37 反対の関係にある言葉の仲間集めをする(反対類推, 反対語)。
- 38 社会現象や日常生活における様々な経験に関する「どうして?」「どうすればいい?」という問いかけに対して、その理由を言葉で表現する。

因子5は、23, 26, 27, 28で構成される。これらの項目は、再現遊び、見立て遊び、ごっこ遊びをする項目から構成されているため、「象徴遊び」因子と命名した。

- 23 ジェスチャーによる日常生活の再現遊びをする。
- 26 ストーリー性のある見立て遊びをする。
- 27 お店ごっこをして遊ぶ。
- 28 ストーリー性のあるごっこ遊びをする(学校ごっこ, 探検ごっこ等)。

因子6は、19, 20, 21, 22, 24で構成されている。

これらの項目は、対の関係、関係付けにかかわる項目であるため、「関係付け」因子と命名した。

- 19 かくれんぼをしてさがす役とかくれる役とを理解したり、鬼ごっこで鬼と逃げる役割とを理解する。
- 20 じゃんけんの勝ち、負けが分かる。
- 21 トランプのばば抜きや神経衰弱をする。
- 22 同じ食べ物のカード、同じ色のカード等を選ぶゲームをする。
- 24 砂場に山や池、川などを作り、水を流したりして遊ぶ。

因子7は、1, 49で構成される。これらの項目は絵の叙述や絵の配列による表現であるため、「絵の叙述」因子と命名した。

- 1 絵を見て絵の内容を説明する。
- 49 物語を聞いて、絵カードをあらすじに沿って並べる。

2. 指導内容の再構成

(1) 因子と経験年数の相関

回答者の言語障害教育にかかわる経験年数が各因子得点にどのような影響を及ぼしているかについては、経験年数と各因子との相関は、スピアマンの順位相関係数を用いて検定した結果、各因子とも無相関であった。

アンケート回答者の指導内容に関する判断は、言語障害教育の経験年数の長短に関わりなくなされたと考えられる。

(2) 指導内容のカテゴリー

指導内容は52項目から構成されていたが、因子分析の結果に基づいて、各因子別に指導内容を整理すると、7つの指導内容にまとめられる(表6)。

IV. 今後の課題

言語発達年齢で4歳～6歳の段階の言語発達の遅れの児童に対する指導内容を作成し、因子分析を用いて検討した結果、52項目の指導内容は7つの指導内容のカテゴリー(42項目)に再構成された。

このことにより、教員の指導経験や判断に基づいた、指導内容が整理され、実際の指導の場において指導内容を検討する上でのひとつの拠り所としての活用が期待される。

しかし、7因子の累積寄与率が63.1%であり、これ

言語発達に遅れのある児童の指導内容に関するカテゴリー分析

表 5 バリマックス回転後の因子負荷量

	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5	因子 6	因子 7	共通性
内容 1	0.3489	-0.2042	0.0382	0.1420	-0.0315	-0.0084	<u>0.5282</u>	0.4652
内容49	0.3292	-0.0522	0.4087	0.1057	0.3083	0.1862	<u>0.5172</u>	0.6866
内容 2	0.4252	-0.1067	0.1427	0.1040	0.0939	-0.0940	<u>0.4870</u>	0.4782
内容 3	<u>0.5881</u>	-0.1481	0.0135	-0.0404	0.1847	-0.0891	0.1436	0.4323
内容 5	<u>0.7908</u>	-0.0271	0.0817	0.0506	0.2505	-0.0437	0.0891	0.7079
内容11	<u>0.5999</u>	0.0923	0.1440	0.0679	0.1605	-0.0713	0.3562	0.5515
内容12	<u>0.7306</u>	-0.0862	0.0427	0.0509	0.1747	-0.1694	0.1809	0.6376
内容13	<u>0.7704</u>	-0.0797	0.0947	0.1507	0.0244	-0.1739	0.1126	0.6752
内容14	<u>0.7354</u>	-0.1351	-0.0235	0.0405	-0.0079	-0.0931	0.0955	0.5791
内容33	<u>0.6408</u>	-0.0851	-0.0122	-0.0496	-0.2067	-0.1391	-0.0722	0.4877
内容34	<u>0.8164</u>	-0.1538	0.1225	0.1808	-0.0349	-0.0241	0.0804	0.7461
内容40	<u>0.5586</u>	-0.1702	0.1827	0.2632	0.3164	0.0071	-0.0281	0.5446
内容 4	-0.1002	<u>0.7442</u>	-0.0781	-0.0579	-0.0016	0.1665	0.0834	0.6080
内容 6	-0.1216	<u>0.7572</u>	0.1125	-0.1355	-0.1456	0.2339	0.0086	0.6951
内容 7	-0.1481	<u>0.8583</u>	0.1654	0.1638	0.0311	-0.0831	-0.0613	0.8244
内容 8	-0.0917	<u>0.9190</u>	0.1519	0.1209	0.0511	-0.0224	-0.0607	0.8975
内容 9	-0.1748	<u>0.8077</u>	0.1896	0.1297	0.0516	0.0915	-0.0423	0.7485
内容10	-0.1232	<u>0.8570</u>	0.1371	0.0116	-0.1469	0.0387	-0.1597	0.8171
内容15	0.2314	0.2917	0.0771	-0.1528	0.2009	0.0831	-0.0273	0.2160
内容16	-0.2205	0.4733	0.0548	0.0440	0.1115	0.4154	0.0776	0.4686
内容17	0.2401	0.1294	0.1071	0.0834	0.2668	0.1387	0.4317	0.3697
内容18	0.3024	0.2431	0.0956	0.2138	0.3940	0.0359	0.3162	0.4620
内容19	-0.2205	0.0154	0.1135	0.0495	0.1579	<u>0.6684</u>	0.0747	0.5415
内容20	-0.1152	0.0335	0.1113	0.0792	0.0313	<u>0.8515</u>	0.0907	0.7673
内容21	-0.0406	0.2100	0.1562	0.1770	0.1446	<u>0.7061</u>	0.1445	0.6419
内容22	-0.2781	0.3620	0.0989	0.2762	0.1413	<u>0.5478</u>	-0.1077	0.6261
内容24	-0.1257	0.1713	0.0456	0.0847	0.3240	<u>0.6048</u>	-0.2968	0.6133
内容23	0.0067	-0.0085	-0.0080	0.1159	<u>0.5725</u>	0.2456	0.1236	0.4169
内容26	0.0417	-0.0513	0.1235	0.0069	<u>0.7454</u>	0.0361	0.1928	0.6138
内容27	0.1252	0.1757	0.1810	0.1443	<u>0.6424</u>	0.3608	-0.0477	0.6453
内容28	0.1608	-0.0205	0.1949	0.1092	<u>0.9052</u>	0.0400	0.0091	0.8972
内容25	0.0723	0.3456	0.1192	<u>0.5453</u>	0.1578	0.1635	-0.3053	0.5811
内容29	-0.2088	0.4418	0.2130	<u>0.5537</u>	0.0740	0.2374	0.1083	0.6643
内容30	0.0177	0.1127	0.2448	<u>0.7683</u>	0.1463	-0.0254	0.0842	0.6924
内容31	0.2202	0.0038	0.1908	<u>0.7345</u>	0.1340	0.0149	0.3547	0.7684
内容35	0.2138	0.0358	0.2138	<u>0.6279</u>	0.1164	0.2537	-0.3758	0.7061
内容36	0.1053	0.0511	0.0971	<u>0.8565</u>	-0.0802	0.1319	0.1429	0.8010
内容37	0.0715	-0.0047	0.2181	<u>0.7559</u>	0.0423	0.1480	0.3584	0.7762
内容38	0.3487	-0.2270	0.1867	<u>0.5307</u>	0.2478	0.0497	-0.1114	0.5658
内容32	0.4777	-0.2091	0.0935	0.3944	0.0927	0.1820	0.3367	0.5913
内容39	0.3589	-0.2274	0.2286	0.3723	0.2966	0.0199	-0.0526	0.4625
内容41	0.1774	-0.0427	<u>0.5642</u>	0.1378	0.4491	0.1679	-0.0586	0.6039
内容42	0.0004	0.1887	<u>0.8098</u>	0.2351	0.1204	0.2301	0.1432	0.8347
内容43	0.1690	0.0942	<u>0.7963</u>	0.1606	0.0539	0.0096	-0.1795	0.7326
内容44	0.1485	0.0880	<u>0.7900</u>	0.1161	0.0557	0.0290	-0.1546	0.6952
内容45	-0.0972	0.2036	<u>0.7043</u>	0.1630	0.0314	-0.0538	0.1930	0.6147
内容46	0.0506	0.3369	<u>0.7250</u>	0.1864	0.0225	0.1822	0.2160	0.7568
内容47	0.1268	0.1191	<u>0.5748</u>	0.0831	0.1344	0.0066	0.2122	0.4306
内容48	-0.1269	0.0540	<u>0.6599</u>	0.2406	0.1602	0.3480	0.3563	0.7861
内容50	0.3459	-0.0571	0.3678	0.0913	0.3688	0.1547	0.4780	0.6549
内容51	0.2706	-0.0492	0.4678	0.1591	0.3008	0.1794	0.4726	0.6658
内容52	0.2658	-0.1319	0.4714	0.0504	0.4574	0.1457	0.1753	0.5739
固 有 値	12.527	8.805	3.719	3.188	2.763	2.427	1.785	
寄 与 率	0.1227	0.1082	0.1063	0.0922	0.0764	0.0676	0.0578	
累積寄与率	0.1227	0.2309	0.3372	0.4294	0.5058	0.5734	0.6312	

表 6 指導内容のカテゴリー

- カテゴリー 1 「経験や映像をもとにして、動作化したり言語化することに関わる指導内容」**(3, 5, 11, 12, 13, 14, 33, 34, 40*)
- ・日常生活でよく経験している事柄や内容を理解している話を聞いて、場面ごとの絵カードを話の内容に沿って並べ動作化する。
 - ・文を正しくまねて言い、人形等を操作したり、動作する(文の長さは3文節～4文節から始め、6～7文節程度まで扱う)。
 - ・日常生活では通常あり得ない意味的制約が弱い文表現に対応した絵カードを用いて、「～が～した」などの文で話す。
 - ・生活経験を書いた絵日記や親しみのある絵本の字を読み、動作化したり、話の内容を説明し、5 W 1 H の質問に答える。
 - ・生活経験の一場面を表す絵を見て、動作化する、その状況について「～が～する」「～が～を～する」「～に～がある、いる」「～は～で～を～する」「～は～を～にあげる」「～は～を～から(に)をもらう」の構文や複合文で絵カードや言葉を使って説明する。
 - ・日常生活で印象に残ったことを絵日記に書き、発表する。
 - ・語順を入れ替えたときに文頭にくる単語を教師が言った後に、続けて子どもが表現する。
 - ・人形や絵カード等の操作により、受動文を作成する。
 - ・人形や絵カードと文のモデルを利用した学習を行い、熟知している表現の範囲内で人形等を操作して受動文を能動文、能動文を受動文に変えて説明する。
- カテゴリー 2 「視覚-運動回路を用いて形を弁別、構成、操作することに関わる指導内容」**(4, 6, 7, 8, 9, 10)
- ・ジグソーパズルなどをする。
 - ・迷路遊びを行う。
 - ・複数の重なり合った図形や絵の中から、提示された図形と同じものを探して縁取る。
 - ・複数の類似した図形の中から、提示された図形と同じものを探して縁取る。
 - ・複数の図形や絵の中から、異なる特徴をもつものを探す。
 - ・手本を見ながら、点と点を線で結び、同じ模様や図形を書く。
- カテゴリー 3 「聴覚的短期記憶と再生に関わる指導内容」**(41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48)
- ・複数の課題を同時に指示し、順に実行する。
 - ・伝言ゲームや模擬電話を使って4つの数や5つの数の復唱をする。
 - ・20から1までの逆唱をする。
 - ・4つの数の逆唱をする(例 6-5-2-8)。
 - ・聞き慣れた曲のメロディーや歌詞を聴いて、曲名を言う、絵カードを選ぶ。
 - ・言葉の初めにくる音(語頭音)をさがし、同じ頭文字の言葉を集める。
 - ・文字や積木等を使い、基本音節*からなる語を音節に分ける。
- *基本音節：母音、子音+母音の構造をもつ直音で短音節、清音・濁音が含まれる。サル、ネズミ、ノコギリ、クジラなど
- ・しりとり遊びをする。
- カテゴリー 4 「類別・類推に関わる指導内容」**(25, 29, 30, 31, 35, 36, 37, 38)
- ・事象と記号の連合学習をする(色の自動車、飛行機、船の絵カードをそれぞれ何枚か準備して、その場で「自動車は赤」「飛行機は緑」「船は黄色」というような事象と色のような記号との約束事を決め、同一事象の絵カードに記号をつけさせる(この場合には色を塗る)。
 - ・魚、野菜、果物、動物などという抽象名詞による仲間集めをする。
 - ・属性による分類を行い、言葉で説明する。
 - ・言葉の仲間分けを行い、その違いについて適切な内容(適切な基準や同一の基準で比較)と適切な表現(両者の差異が正しく分かる)で説明する。
 - ・上、中、下、前、後、横等の位置関係を示す言葉に対応した場所に物を分類する。
 - ・関係のある言葉の仲間集めをする(関係類推)。
 - ・反対の関係にある言葉の仲間集めをする(反対類推、反対語)。
 - ・社会事象や日常生活における様々な経験に関する「どうして?」「どうすればいい?」という問いかけに対して、その理由をことばで表現する。
- カテゴリー 5 「象徴遊びに関わる指導内容」**(23, 26, 27, 28)
- ・ジェスチャーによる日常生活の再現遊びをする。
 - ・ストーリー性のある見立て遊びをする。
 - ・お店ごっこをして遊ぶ。
 - ・ストーリー性のあるごっこ遊びをする(学校ごっこ、探していごっこ等)。
- カテゴリー 6 「ルールの理解や関係付けに関わる指導内容」**(19, 20, 21, 22, 24)
- ・かくれんぼをしてさがす役とかくれる役とを理解したり、鬼ごっこで鬼と逃げる役割とを理解する。
 - ・じゃんけんの勝ち、負けが分かる。
 - ・トランプのばば抜きや神経衰弱をする。
 - ・同じ食べ物のカード、同じ色のカード等を選ぶゲームをする。
 - ・砂場に山や池、川などを作り、水を流したりして遊ぶ。
- カテゴリー 7 「絵やイメージの叙述に関わる指導内容」**(1, 49)
- ・絵を見て絵の内容を説明する。
 - ・物語を聞いて、絵カードをあらすじに沿って並べる。

* 番号は指導内容の番号

以外に別な因子が存在しているため、残された他の因子の検討により、教員の指導経験や判断に基づいた指導内容の再構成を行うことが今後の課題である。また、再構成された指導内容について、表1に示した検査項目との関連を整理し、実践的検討を行うことが必要であると考えられる。

謝 辞

国立特殊教育総合研究所の松村勘由先生、牧野泰美先生、言語障害通級指導教室の先生方には、アンケート調査の実施に当たって、御配慮、御協力を頂きました。また、上越教育大学大学院の星名信昭先生には、論文内容に関して種々のご教示、ご指導を賜りました。記して感謝申し上げます。

文 献

- 1) 天野清 (1977) 幼児の文法能力. 国立国語研究所報告58, 東京書籍.
- 2) 天野清 (1986) 子どものかな文字の習得過程. 秋山書店.
- 3) 林部英雄 (1976) 知覚のストラテジーの実験的研究. 村井潤一, 飯高京子, 若葉陽子, 林部英雄 (編), ことばの発達とその障害, 第一法規, 99-108.
- 4) 北海道言語障害児教育研究協議会 (1998) 北海道言語障害児教育研究大会発表集録.
- 5) 岩立志津夫 (1994) 幼児言語発達における語順の心理学的研究. 風間書房.
- 6) 国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部 (1998a) 全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査報告書. 国立特殊教育総合研究所.
- 7) 同上 (1998b) コミュニケーション障害における子どもへの教育的援助に関する研究. 国立特殊教育総合研究所.
- 8) 小林重雄 (1980) 自閉症—その治療教育システム. 岩崎学術出版社.
- 9) 小寺富子, 倉井成子, 里村愛子, 田中真理, 佐竹恒夫 (1987) 言語発達遅滞検査法〈試案1〉を用いた正常幼児の言語能力の調査. 音声言語医学, 第28巻3号, 日本音声言語医学会, 183-199.
- 10) 長崎勤, 佐竹真次, 宮崎眞, 関戸英紀編著 (1998) スクリプトによるコミュニケーション指導. 川島書店.
- 11) 長崎勤, 小野里美帆 (1996) コミュニケーション

- の発達と指導プログラム—発達に遅れをもつ乳幼児のために—. 日本文化科学社.
- 12) 大久保愛 (1967) 幼児言語の発達. 東京堂出版.
 - 13) 大塚明敏 (1980) 言語指導法—絵日記メソッドについて—. 筑波大学附属聾学校研究紀要, 第2号, 26-54.
 - 13) 佐藤忠道, 神田英治, 秋田茂, 庄司壽一 (1992) コミュニケーションに障害を持つ幼児の教育に関する研究—言語発達遅滞児を中心として—. 研究紀要, 第5号, 北海道立特殊教育センター.
 - 14) 嶋津峯眞, 生澤雅夫, 中瀬惇 (1983) 新版 K 式発達検査実施手引書. 京都国際社会福祉センター乳幼児発達研究所.
 - 15) 鈴木情一 (1977) 日本の幼児における語順方略. 教育心理学研究, 第25巻第3号, 日本教育心理学会, 56-61.
 - 16) S. ブルーマ, M. シェアラ, A. フローマン & J. ヒリアード. 山口薫監訳 (1983) カード式ポータージ乳幼児教育プログラム. 主婦の友社.
 - 17) 高嶋利次郎, 佐藤靖典, 千葉聡美, 福島美恵子 (2001) 言語障害通級指導教室, 言語障害特殊学級における言語発達に遅れのある児童の指導の改善・充実に関する研究. 北海道立特殊教育センター紀要, 第14号. 49-103.
 - 18) 田口恒夫 (1970) 言語発達の病理. 医学書院.
 - 19) 田口恒夫編 (1974) 言語発達の臨床. 光生館.
 - 20) 田中教育研究所編, 河井芳文著 (1979) 文字とことばの指導のための言語発達診断検査. 田研出版.
 - 21) 上田礼子 (1980) 日本版デンバー式発達スクリーニング検査. 医歯薬出版.
 - 22) 宇佐川浩 (1991) 感覚と運動の初期発達と療育—目と手の発達指導を中心として—. 全国心身障害児福祉財団.
 - 23) 山本靖 (1993) 公民的資質の基礎としての社会的態度目標の構成. 上越教育大学大学院修士論文.